

豊友会東京支部2022年度「秋の集い」開催報告

飯沼 典雄

三年ぶりの「秋の集い」は、10月27日(木)の午前10時30分から、池袋のホテルメトロポリタンで開催されました。今回も「春季総会」と同じくコロナ感染の禍中でしたので、立食の懇親会はできませんでしたが、新会員6名を含めた136名が出席しました。

濱田理事の司会でスタートし、冒頭のメモリアルでは逝去された8名の会員のお名前、享年、逝去日をひとりずつ読み上げ、最後に参加者全員で起立して黙祷を捧げました。

次に、石井支部長から3つの目標「息災」「感謝」「存続」を継続して実施していくとの挨拶があり、続いて岡林理事長からは、「豊友会の今」と題し、豊友会の現状報告、会員数の推移などに加えて、会の存続に繋がる集客力のある活動を企画する事が述べられました。

続いてSDGs検討チームの活動について福井理事から「ある家族のSDGsへの取り組み」と題して、会員やご家族にとっての身近な活動が紹介されました。この内容はリーフレット化され、「豊友会だより」70号に同封されています。

新会員紹介では「秋の集い」に参加された6名が紹介され、2022年度後期の賀寿者のお祝いでは、全対象者名をスクリーンで紹介し、当日参加された喜寿者の山西嘉晴さんへ岡林理事長から記念品が贈呈されました。山西さんからは、喜寿を迎えての実感とお礼が述べられました。



<福井泰子理事>

次の同好会紹介では直江理事から全同好会の活動内容、代表者名とその連絡先の詳細が報告されました。



<武藤 芳照先生>

休憩を挟んで後半の【特別講演】は、東京大学名誉教授で現在東京健康リハビリテーション総合研究所代表理事/所長をされている武藤芳照先生による「中高年の健康づくりの常識・非常識-穏やかで実りある日々のために」でした。内容は健やかに長生きするための実践的なもので、講演を聞いた会員から「寿命が5年は延びた」などの声も聞かれ、とても好評でした。

その後に会員同士が懇談する場として茶話会の時間を設けました。参加者の多くから懐かしい人と近況などを歓談できたと、開催者にとって嬉しい言葉をいただき、同時に会員が実際に参加できる「集まり」の大切さを実感した次第です。